



部員募集の手作りポスターを張る、広島修道大の岡さん。さらなる部員充実を目指す（広島市安佐南区で）

一方、広島経済大では、04年春、硬式野球部が東京

・神宮球場の全日本大学野球選手権に出場。これを機に急ぎよ、応援団が結成された。最初は素人集団だったが、その時の興奮が忘れ

な「自己犠牲」の精神だ。

「見返りは言葉だけ」。

そう話すのは、1922年から脈々と続き、現在も10人の団員が所属する関西大（大阪府）応援団の第84代団長、森下智司さん（23）。野球部などの試合で応援し、終了後、「おかげで勝てたよ」と、選手がかけてくれるさりげない感謝の言葉。それが、森下さんに新鮮な喜びを与えてくれるという。

もう一つ、彼らを支えるのは「愛校心」。卒業生の前で応援歌を披露した時、自分たちの父親より年配のOBが見せた涙を、森下さ

「よ」の感謝糧に

らず、一部のメンバーが残り、05年に名ばかりとなり、05年に名ばかりとなっていた応援部を8年ぶりに復活させた。

んは忘れられない。

「自分たちには、勝敗がない。でも、グラウンドとスタンドという場所や、年代をも超えて、かかわる者すべてを母校の名の下に一つに結びつける。それが応援団なんです」

応援に回る学生たちに共通するのは、今の時代の若者に最も敬遠されがち

よ現役の学生も断然、情熱があふれていたのは、やはりOBたち。1962年に広島修道大の前身・広島商科大で応援団を創設したメンバーの1人、杉原義孝さん（63）は、当時の乱舞の写真や歌をCDに収めている。部員は40人を超え、たたみ16畳分、日本一の大団旗を掲げた最盛期を自慢げに、そして懐かしそうに語った。思い通り、やりたいことに打ち込めるのが、大学時代と感じた（中筋夏樹）

P.S.